

## 服装書の系譜 — 16世紀の貴重書から —

図書館館長補佐 佐藤 俊子

中世の服装研究は地域の服装の差異に対する興味から始まり、遠くの異国人の風俗へと視野を拡げていった。15世紀末の大航海時代に入るとはるかに広範な地域の服装が紹介されるようになり、16世紀後半には異国衣装を描写した服装書が登場した。

本館では16世紀の代表的な服装書を所蔵しているが、当時の服装研究を調べるに当たり、『Clothing culture, 1350—1650』(Ashgate, c2004)〈383.13/C〉の第2章、「16世紀ヨーロッパの服装書の文化的重要性 (Ilg, Ulrike. The cultural significance of costume books in sixteenth-century Europe)」およびアメリカの服飾学会誌「Dress」Vol.3 (1977)の「16世紀服装書 (Olian, Jo Anne. Sixteenth-century books)」の論文記事を参考に考察した。両者の記述の中で16世紀に出版されたとする11冊の服装書のうち、本館には出版年違いのもの2冊を含めると7冊<sup>2)</sup>を所蔵している。

16世紀の服装書はヨーロッパ人の好奇心と通俗性が混在しており、当時のヨーロッパの貴族、中産階級、農民、兵士、労働者の服装および当時発見され、調査された国々の諸階級の風俗や服装が記述されていた。また服装書の多くには類似した服装図が載せられている。すでに出版された挿図資料を模写したり、絵画に描かれている人物像を借用していたからである。

最初の服装書、『服装図譜』<sup>1)</sup>について、オリアンは「多くはオリジナルではなく、ヴィコ (Vico, Enea, 1523—1567) の版画が基になっている。表現のしかたは大変異なっているが、ポーズや服装

は多くの場合、全く同じである」と記述しているが、本館ではヴィコの挿図資料は未所蔵なので確認できない。一方、この『服装図譜』の英訳『A collection of the various styles of clothing』(Minneapolis : James Ford Bell Library, 2001)〈383.1/D〉の前書きでウルネス (Urness, Carol) は「ドゥセルプ (Deserps, François) の著書の中の図版は典拠が何処なのか定かでない」と記述している。

1563年にヴェネチアで出版された2番目の服装書、ベルテッリ (Bertelli, Ferdinando) による『現代諸国民の衣装』<sup>2)</sup>の図版は1体の人物像が装飾のない枠の中に描かれている。ベルテッリの服装書と『服装図譜』の関連を見ると、例えば、ベルテッリの図版「アフリカの娘」<sup>3)</sup>は、『服装図譜』の図版「トルコの娘」<sup>4)</sup>を足元の背景や手の仕種、顔の向き、服装の微妙なデザインを変えて模写している。この他にも、『服装図譜』から「イタリアの女性」「フランドルの貴婦人」「スペインの農婦」「リュベックの女性」「バーバリの女性」など多くの図版が模写されている。当時は図版を見たまま写して彫り、それを刷るので出来上がると図が反転しているものもある。

1581年に出版された『各国の服装』<sup>4)</sup>は、各々の服装の名前がラテン語、フランス語、ドイツ語で表記されたボワサル (Boissard, Jean Jacques, 1533—1598) による版画集である。この中の図版「3人のドイツ衣装の女性」にはヴァイゲル (Weigel, Hans, 1549—1578) の『服装書』<sup>3)</sup>の図版「アルザスの貴婦人」が組み込まれており、「スエービー族 (古代ゲルマン民族) の貴婦人」

と呼ばれている。ここでは、銅版画の技法により衣装のディテール、髪、文様などの表現が緻密である。

古代ローマの服装から始まり、ルネサンス期イタリア各地およびヨーロッパ、アジア、アフリカの衣服を包括した最初の服装集が、1590年に出版されたヴェチェリオ（Vecellio, Cesare, 1521－1601）の『世界各地の古代及び現代の服装について』<sup>7)</sup>である。ヴェチェリオも多くの服装を模写している。例えばニコライ（Nicolai, Nicolo de, 1517－1583）の『トルコ旅行記』 *Le navigationi et viaggi, fatti nella Turchia* (Venetia : F.Zilleti, 1580) <KH032/383.126/N> の「キオス島の女性」<sup>8)</sup>を左右逆にして、「シリアのユダヤ人女性」<sup>9)</sup>とタイトルを付けている。彼は時には、服装の典拠を示しており、教会の祭壇画から

も模写した。またヴェネチアの風俗を描写し、人々の職業にラテン語やイタリア語の詳しい記述を添えている。先人たちの模写をしていたとはいえ、借用したものを包括し、全体的に独創的な作品にするため、詳細な解説を付け加えていた。

ベルテリ（Bertelli, Pietro）の『諸国民の服装書』<sup>6)</sup>の図版でも、ヴェネチア人が髪を脱色している光景はヴェチェリオのものに似ているが、椅子のそばのチョピン（コルク底のサンダル）は1匹の子犬に替わっている。

16世紀ヨーロッパ人の好奇心から生まれた独創的な視点は17世紀には失われていく。異国の服装への関心は薄れていき、宮廷衣装を描いたコスチューム・プレートや肖像画が盛んに制作されるようになった。

注 16世紀の服装書（発行年順）

1. Recueil de la diversité des habits. Paris : Richard Breton, 1562. <KH031/383.1/R>
2. Bertelli, Ferdinando. Omnium fere gentium. Venetij : F.Bertelli, 1563. <KH031/383.1/B>
3. Weigel, Hans. Habitus praecipuorum populorum. Nurnberg : Hans Weigel, 1577. (本館所蔵:1969年複製版) <383.1/W>
4. Boissard, Jean Jacques. Habitus variarum orbis gentium. [Mecheln] : [Caspar Rutz] ,1581. <KH031/383.1/B>
5. Amman, Jost. Gynaecium, siue theatrum mulierum. Francoforti : Sigismundi Feyrabendy, 1586. <KH031/383.1/A>
6. Bertelli, Pietro. Diversaru nationum habitus . Patauij : Apud Alciatum Alcia et Petrum Bertelli, 1591. (本館所蔵:1592年版) <KH032/383.13/B>
7. Vecellio, Cesare. De gli habitus antichi et moderni di diverse parti del mondo. Venetia : Damian Zenaro, 1590. <KH032/383.1/V>



図1：アフリカの娘



図2：トルコの娘



図3：キオス島の女性



図4：シリアのユダヤ人女性